

柳 東弦 (リュウ ドンヒョン)

韓国出身

筑波大学 人間総合科学研究科体育学専攻 博士課程

【これまでの研究活動を通して得たもの】

筑波大学大学院(博士後期課程)の所属として研究活動をしている私は、主に日本と韓国の剣道史について研究を進めております。現在、日韓剣道界では、剣道の形、理念や起源などをめぐり、それぞれ異なる経緯で発展が続いております。私は、なぜ剣道の強豪国である日韓は異なる道を歩んでいるのかについて疑問点を持つようになりました。その疑問点を解決するためには、日韓剣道史の中でも、特に日本人と朝鮮人が同じ場所(朝鮮半島)で剣道活動をした日本植民地下朝鮮剣道史を理解する必要があると判断されました。

日本植民地下朝鮮剣道史の一端を明らかにするために、日本植民地下朝鮮における植民地政策の展開(時代的背景)を考察しつつ在朝鮮日本人と朝鮮人の剣道活動の特徴を検討しております。それを究明するために、筑波大学の先生の方々から貴重なご指導(セミナー、懇談会など)を受けながら、学会発表と現地調査などを行っております。学会発表(2021 年度体育史学会第 10 回大会)を通しては、他大学の先生の方々からご指導やアドバイスを受けるようになりました。その結果、私の研究がより良い方向に向かうようになったと考えております。そして、日本国内での現地調査を通しては、新たな史資料の収集・発掘したことだけでなく、武道関連団体の役員とのコミュニケーション、各地域の文化、古文書保存方法

なども学ぶことができました。また、日本国内のみならず韓国での現地調査も実施しつつ研究を進めていきます。そして、研究活動をしつつ筑波大学の剣道部と一緒に修練しております。そのおかげで、日本剣道の特徴や正しい剣道について学んでおります。

今後の将来計画としては、国際的に研究活動を活発に実施しつつ、キャリア開発をしていきたいと考えております。また、最終的な目標は、韓国に帰国して次世代を担う学生たちを指導・育成する立場に立つことを望んでおります。それだけでなく、日韓剣道界の架け橋になりたいと考えております。自分の目標を達成するまでに精進していきます。

【奨学生時期中にできたこと・将来計画】

2021 年 4 月から 2022 年 5 月まで坂口国際育英奨学財団の奨学生として採用されました私は、当財団の奨学金のおかげさまで、安定的な日本留学生生活ができるようになりましたことを契機に、充実した研究環境を備えることができました。そして、奨学生たちが交流できるように様々なイベントを開催していただき、大変勉強になりました。交流会を通して多分野の研究や異文化の理解度が向上されるようになったと考えております。

坂口国際育英奨学財団の奨学生に採用される前の時期には、経済的な問題を解決するために、工場やコンビニでバイトをしながら研究を進めて

いました。しかし、やはりバイトを実施しながら、研究に集中することは難しいでしたので、バイトを辞めて主に研究を中心とした生活を過ごしました。その中で、2021年4月に筑波大学大学院の博士後期課程に進学するとともに、坂口国際育英奨学財団の奨学生となった私は、経済的な問題が解決されるようになりました結果、研究に必要な史資料を購入したり、現地調査を実施したりするなど、活発に研究活動ができるようになりました。坂口国際育英奨学財団の貴重な奨学金のもとで研究活動を実施した結果、次世代研究者挑戦的研究プログラム(JST-SPRING)に採用されるようになりました。本プログラムは「博士後期課程学生の挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材が様々なキャリアで活躍できるように研究力向上や研究者の能力開発を促すプログラム」でございます。坂口国際育英奨学財団の奨学生時期中に学んだものを活かしつつ、次世代研究者挑戦的研究プログラムを活用して研究成果をあげていきたいと考えております。

坂口国際育英奨学財団の奨学生として経験したものは、私の人生における貴重な財産となったと考えております。当財団の設立の趣旨である世界の平和や国際社会の貢献に一助になりたいと考えております。

以上をまとめると、坂口国際育英奨学財団の支援のおかげさまで、活発に研究活動(現地調査、史資料の収集、学会発表など)が可能となったことだけでなく、生活の面にも大変助かりました。当財団の理念を心に刻みながら、一步ずつ前進していきたいと考えております。心より感謝申し上げます。

以上